

教科目名 プロジェクト演習 (Project Seminar IV)

専攻名・学年 : 全専攻 2年 (教育プログラム 第4学年 科目)

単位数など : 必修 1単位 (前期1コマ, 学習保証時間 22.5時間)

担当教員 : 高橋徹, 一宮一夫, 相本正吾

授業の概要			
特別研究の遂行には、論文作成能力、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力などが必須である。この教科では縮約練習などにより、論文作成の際に役立つ論理的な思考法や文章構成法を習得する。更に、実践的なディベート方式の授業により、自らの力で考え、表現できる能力を養成する。			
達成目標と評価方法		大分高専目標(A1)(C1), JABEE 目標(a)(f)	
(1) 縮約練習を通し、日本語による文章構成法を習得する。(小テスト, 定期試験) (2) 漢字・送り仮名など、日本語の基本について再確認する。(小テスト) (3) 文章のパラグラフ化を理解し、論文を論理的に構成できる。(定期試験) (4) 情報を収集し、論理的に自らの考えを構築し、これを表現して討議を行うことができる。(ディベート) (5) 事実と自らの考え、他者の考えと自らの考えとを区別できる。(ディベート, 定期試験)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1 2 ~ 6	[日本語表現] 「日本語練習帳」の解説, 縮約練習の説明 縮約練習, 解説	教科書「日本語練習帳」の内容を理解する。特に、文章の構成力を身につける上で役立つ「縮約」技術の練習法について学ぶ。 新聞の社説など、与えられた文章について縮約を行う。縮約した文章は教員によって評価される。毎回、100点満点中80点以上を取ることが望ましい。	【理解の度合い】
7 8	「理科系の作文技術」の解説 パラグラフ化の練習	教科書「理科系の作文技術」の内容に触れる。文章のパラグラフ化について学習する。 2~8回まで授業の最初に漢字などの小テストを行う。	
9	小テスト	縮約, 漢字書き取りなどについて小テストを行う。	
10 ~ 12 13 14	[ディベート] 解説, グループ分け, 資料収集, 賛成派・反対派の決定, 作戦会議, プレゼンテーション作成 プレゼン, ディベート プレゼン, ディベート	与えられた複数のテーマについてプレゼンテーションおよびディベートを行う。学生は2~3名ずつの班に分かれ、それぞれのテーマについて2つの班が賛成派・反対派の立場となりプレゼンテーションおよびディベートを行う。ディベートの判定は、教員およびディベートに参加していない班の学生によって行われる。 10~12回まで、授業の最初に縮約練習をする。	【理解の度合い】
15	前期期末試験 前期期末試験の解答と解説	小論文, 縮約など	【試験の点数】 点
履修上の注意	縮約練習をする上で必要な国語辞典などを用意すること。		
教科書	大野 晋, 「日本語練習帳」, 岩波書店。 木下 是雄, 「理科系の作文技術」, 中央公論新社。		【総合達成度】
参考図書	松本茂, 「頭を鍛えるディベート入門」, 講談社。		
事前準備学習	教科書の対応箇所を読んでおくこと。日常において理系の作文を行う際には、パラグラフを意識して作文する習慣をつける。文章を読む場合には、事実か意見かを意識しながら読む。		
関連科目	日本語表現法, 哲学概説, 思想史, 卒業研究, 特別研究		
総合評価	授業中の小テスト・縮約練習結果・取り組み状況(約70%)と定期試験(約30%)により総合評価する。		【総合評価】 点